

多文化共生教育支援事業報告書

1 委託業務名・概要

(1)業務名 2005 国際交流大作戦

(2)概要（事業の要約・事業の目的など）

朝鮮学校とブラジル人学校及び公立小学校との文化、スポーツ等の相互交流事業を実施することにより、それぞれの文化・習慣等の相互理解を深める。また、子ども同士との交流から保護者等の交流に発展させ、地域の共生社会の実現を目指す。

3 カ国学校交流事業の実施

3 カ国（朝鮮、ブラジル、日本）の文化等の相互理解を深めるため、国際理解交流事業を実施する。

- ・ 朝鮮の食文化体験講座、サッカー交流、国際文化比較事業の実施
- ・ 対象生徒 58 名

焼き物の文化理解交流会の開催

エスコラネクター（ブラジル人学校）の生徒と愛知朝鮮第七初級学校の生徒と合同で瀬戸地域の焼き物施設等の見学や作陶を体験することで、日本文化を知り理解の促進をはかる。

- ・ 瀬戸蔵ミュージアムの見学、陶磁資料館の作陶体験など
- ・ 対象生徒 68 名

愛知朝鮮第七初級学校と瀬戸市立祖母懐小学校との交流会の開催

互いの文化・習慣等の理解を促進させるための交流会を子ども達中心で企画・運営させ、友達の輪を広げる。

- ・ 交流会の実施にあたっては、子ども達が中心となって企画した事業の実施を目指す。
- ・ 対象生徒 220 名

2 実施事業について

(1)実施時期 平成17年7月1日（金）～平成18年2月28日（火）

(2)実施地域 瀬戸市周辺

(3)事業の具体的内容

三カ国学校交流事業

文化学習会 平成17年10月15日

- ・瀬戸市立祖母会小学校の児童達14名が愛知朝鮮第7初級学校を訪ね、先生から、挨拶の違いや簡単な言葉、風習などについて話してもらった。(45分ほどのお話)

3カ国学校による 造形講座《愉快なお面作り》 平成17年11月1日(火)

- ・午前中、豊田のエスコラネクターの児童達17名が愛知朝鮮第7初級学校を訪問し、自己紹介、朝鮮学校舞踊部の踊りを見学した後、男女混合チームをつくりサッカー交流をした。
- ・昼食後、パルティ瀬戸マルチメディアホールにて、愉快なお面作りをエスコラネクター(17名)、瀬戸市立祖母懐小学校(14名)、愛知朝鮮第七初級学校(27名)の児童達が一緒に体験した。
- ・愉快なお面づくりでは、伝統的な日本のお面について説明を受けたあと、お面を各自思い思いに愉しく作った。

朝鮮の食文化体験講座 平成17年11月15日(火)

- ・祖母懐小学校の生徒14名が朝鮮学校を訪ね、キムチ造りを体験した。
- ・講師として朝鮮第7のオモニ会(お母さんの会6名)に来ていただき、1時間20分程度の短い時間だったが(オモニたちが前日下準備をしてくださった)見事においしいキムチができ上がり、またチジムも焼きおいしく食べた。

焼き物の文化理解交流会の開催

平成18年1月31日(火)

- ・午前10時から12時まで 陶磁資料館の作陶体験を豊田のエスコラネクターの児童達23名、愛知朝鮮第7初級学校生と45名、また先生達12名も参加し行った。
- ・エスコラネクターの児童達は、陶器づくりを初めて体験したということだったが、資料館の方の説明を真剣に見聞きし、上手に仕上げた。ブラジルの子供達の大膽な作品が目玉だった。
- ・昼食後、第7初級学校にて午後1時頃から2時頃迄混合チームで、ドッチボールをした。

- ・ 2時30分から瀬戸蔵ミュージアムを全員で愉しく見学し瀬戸物の歴史や焼き物文化についての理解を深めることが出来た。

愛知朝鮮第七初級学校と瀬戸市立祖母懐小学校との交流会の開催

平成18年1月27日(金)

- ・ 2校交流は5年目になるが、今までの交流は祖母小学校に朝鮮学校の子供達が客人として参加する形式だったが、今回は朝鮮第7初級学校の子供達も実行委員として参加し、祖母懐小学校にて、全校生徒同士の交流会を実施した。
- ・ 混合で18組に分け自己紹介などをした後、校内にいろいろなクイズコーナーやボーリング、ダーツなどのコーナーを準備し、力をあわせて進んで行くという方式にした。
- ・ みんな愉しく行事に参加し仲良く過ごすことができた。

3 実施結果（実施の効果等）

（１）愛知県に在住している外国人の子供達が、日本の文化、愛知県の文化にふれる事が出来、愛知県を始め日本を身近に感じる事ができた。

- ・ 愉快なお面づくりにおいて日本の能面やいろいろなお面などを学ぶことができ、また作陶体験、瀬戸蔵ミュージアム見学を通じ瀬戸の歴史や陶器の歴史に接し、身近な町の身近な歴史にふれあう事ができた。
- ・ —特にブラジルの子供達においては、言葉や文字の問題などでなかなか活動範囲を広げる事が出来なかった状況の中だったが、初めて出来た陶器作りを体験し、物づくりを楽しむという有意義なひと時を過ごすことができた。

（２）3カ国の子供達が交流を深めまた、物を作る、スポーツをする、伝統的文化に携わるなどの交流により、各自の視野を広げ、友の輪を広げるきっかけができた。

- ・ 以前まで祖母懐小学校と第7初級学校、エスコラネクターと第7初級学校という2カ国2校同士の交流から、今回の事業により3カ国3校の生徒たちが集まり交流をすることができた。
- ・ 日本の子供達、在日朝鮮韓国の子供達、エスコラネクターの子供達それぞれの状況や言葉、文化、年齢の違いをこえて、日本で現在暮らしている共通点からも理解を深めようと努力した。

- ・ 交流が終わり、友達ができ、名前をおぼえた、楽しかったなどの感想を言う子供達が多く見られた。

(3) 交流を継続していける土台が強化された

- ・ 3カ国の子供が集い、物をつくったり、ゲームをしたり、スポーツをすることで子供達にとって言葉や習慣の壁を簡単に取り払うことが出来るということが実践で理解できた。
- ・ 初めて祖母懷小学校の子供達が、朝鮮学校を訪ねたこと、朝鮮学校の子供達も全校交流でお客さまでなく、進行の役割を果たせたこと、朝鮮学校のお母さんたちと祖母懷の子供達が交流できたことなど、いままで実現出来なかった事を進めることができ、また新たな課題を持つことができた。
- ・ 先生達の協議・協力関係が深まり、今後更に交流を進めていく良いきっかけになった。

4 事業の特質（工夫した点など）

- ・ エスコラネクターの子供達、また先生方も含め電話やファクスだけでは、意図が通じなかったりするので、通訳の方を通じて直接何度も訪ね打ち合わせをした。
- ・ 陶器作りなど、現地での説明でどれだけ理解できるか不安があったため、具体的な資料等を持ち直接学校へ出向き説明を実施した。
- ・ 事前に参加する子供達の名札を作り名前を呼び合うように指導した。
- ・ エスコラネクターの子供達の状況などを少しではあったが、学習させた。
- ・ 祖母懷小学校との全校交流では、第7の子供達にいかに関交流の「お客さん」ではなく、主人公として活動させるかを考え、実行委員に入り自分たちのコーナーもつくり、食事（給食）時にもクラスによっては当番も手伝えるようにした。
- ・ 先生方も両校分担をもち協力し合い、交流の成功に向けて努力した。

5 今後の課題

(1) 相手の文化・価値観の理解

- ・ エスコラネクターとの交流に関しては、在日ブラジル人の状況や子供達の現状をより理解するための学習などをする必要がある。
- ・ 指導者の理解が、子供達の理解をより効率よくさせられる。
- ・ 実際年齢が違い、言葉が通じない中で自己紹介などをしましたがそれ以上会話が出来ないのが現状にあった。

(2) 交流の主役は子どもたち

- ・ どのようにして交流会をさせるだけではなく、子供達が主体と主人公にさせていくのか工夫の余地がある。

(3) 国籍を超えた交流の和

- ・物づくりやスポーツ交流がとても子供達の心を広げさせるきっかけとなる、という結果を踏まえて、より多くの在日外国人たちとの交流の輪を広げる努力を継続しなければならないし、そのための教員や指導者の和を広げる必要がある。

6 その他参考事項

【新聞記事】

- ・平成 18 年 2 月 5 日 (日)
焼き物の文化理解交流会の開催・・・読売新聞
- ・平成 17 年 11 月 2 日 (水)
3 力国学校による造形講座《愉快なお面作り》・・・中日新聞